

環境にやさしい市民の行動・配慮指針

私たちの日常生活は、生活環境や自然環境ととても密接に関わっています。

今日の複雑化・多様化する環境問題に対応していくためには、ひとりひとりが「自分ごと」として身近な環境の現状や変化に関心を持つことや、市民・事業者・市のパートナーシップによる取り組みが重要となります。

この指針では、日常生活による環境への負荷を低減し、より健全に環境との共生を図っていくための、創意工夫や適切な配慮行動の実践などに役立ててもらいたいと考えています。

1 人と自然が共生し、ゆたかな環境に親しむための行動・配慮指針

みどり

- 民有斜面緑地など私有地のみどりの適正な維持管理に努めましょう。
- 住宅の新築・増築時には、草木の植栽による緑化に努め、また、周辺の自然環境を壊さないように十分配慮しましょう。
- 農地および生産緑地の適正な管理を心掛けましょう。
- 「みどりのよこすかチャリティークリック」や「みどりの基金」など、みどりのための財源確保に協力しましょう。
- 緑地協定の締結による緑地保全・緑化を進めましょう。

水辺環境(海岸・河川)

- 浄化槽は、定期的に清掃・保守点検・法定検査を受けましょう。
- 海岸や河川でのごみは持ち帰り、海洋プラスチックごみの削減に努めましょう。

生物多様性

- 里山的环境を保全・再生し活用する活動に参加しましょう。
- 特定外来生物や有害鳥獣に関する正しい知識を身につけ、ペットは最後まで責任を持って飼いましょう。
- 地域固有の生態系を保全するため、本来その地域に生息しない動植物は持ち込まないようにしましょう。
- 自生する動植物はむやみに持ち帰らないなど、野鳥や昆虫、植物など生き物を大切にしましょう。

自然と調和した公園や文化的景観

- 住宅の新築・増改築時には、街の景観などを損なわないよう十分配慮しましょう。
- 歴史的文化的遺産や伝統行事・伝統芸能について理解を深め、その保全などに協力しましょう。
- 地域の緑化運動や清掃美化活動に参加してみましょう。

2 気候変動への適応、脱炭素社会への移行のための行動・配慮指針

再生可能エネルギー

- 太陽光発電などの再生可能エネルギーや、ヒートポンプ・燃料電池などのエネルギー高度利用技術の導入を検討しましょう。
- 再生可能エネルギーで発電した電力の購入に努めましょう。
- 固定価格買取制度による買取期間を終えた再生可能エネルギー(卒 FIT 電源)について、自家消費し化石燃料による電力消費を抑えましょう。
- 災害時にも電力が活用可能な蓄電池の導入を検討しましょう。

省エネルギー

- 照明器具や家電製品の不必要なつけっぱなしに気を付け、プラグを抜く・節電タップを利用するなどして待機電力を減らしたり、こまめに掃除したりしましょう。
- 冷暖房機器の使用にあたっては、適切な温度設定を心掛けましょう。
- 家電製品を買い替えるときは、省エネ型のものを選びましょう。
- スマートメーターや IoT を活用した HEMS、省エネと再生可能エネルギー活用による ZEH について、検討しましょう。
- 市が発信する省エネ関連情報を確認し、節電や省エネ活動に積極的に取り組みましょう。
- 住宅の新築・増改築時には、通風性・自然光の有効活用に配慮した設計、断熱材や複層ガラス窓の導入など、省エネルギー性能の高い住宅の選択に努めましょう。

脱炭素型のまちづくり

- ヒートアイランド対策として、打ち水や緑のカーテンに取り組んでみましょう。
- 電車やバスなどの公共交通機関や自転車の利用を心掛けましょう。
- 自動車の買い替え時には、ハイブリッド車や EV(電気自動車)など環境負荷の少ない自動車を優先的に購入するよう心掛けましょう。
- 買い物の際には、地場の海産物や農産物などを積極的に購入し、地産地消を通じて、輸送に伴うエネルギー消費の削減に貢献しましょう。
- 商品のカーボンフットプリント(製造・流通過程において排出される温室効果ガス排出量のラベル表示)をチェックしてみましょう。

気候変動への適応

- 住宅の新築・増改築時には、家庭用の雨水貯留施設や雨水を地下に浸透させる雨水浸透ますの設置、再生水の利用などを検討しましょう。
- 敷地内のみどりや土の面を確保し保水力を高めましょう。
- 急傾斜地や狭小な谷戸、活断層など災害に脆弱な土地に住む人は、県や市と相談するなどし、災害対策に努めましょう。
- 住宅の増改築時には、耐震診断を受けて、耐震補強工事を検討しましょう。
- 災害時に備え、日ごろからハザードマップで情報収集し、近隣との協力体制や避難場所などを確認しておきましょう。

3 循環型社会を構築するための行動・配慮指針

ごみの減量化、資源化

- 長く使えて修理しやすい製品の購入に努めましょう。また、廃棄された後に環境への負荷が少ない製品を利用しましょう。
- 環境負荷の少ない製品やサービスを選択するグリーン購入を心掛けましょう。
- 自治会やこども会の行う集団資源回収・バザーなどのリサイクル活動や、小売店などが実施しているトレイ・紙パックなどの分別回収に協力しましょう。
- 不要な買い物を控え、過剰包装を断る・マイボトルなどを利用して使い捨て製品の利用を減らすなど、ごみを出さないことを心掛けましょう。
- 賞味期限や消費期限を正しく理解し、計画的な買い物や調理の工夫により、食品ロスの削減に努めましょう。
- 生ごみの排出時には水切りに努め、家庭用生ごみ等減量化処理機器を積極的に利用しましょう。

ごみの適正処理

- ごみを出すときは、正しく分別して出しましょう。
- 代替フロン等を使用した製品を廃棄する際には、適正な回収・処理に協力しましょう。
- 建築廃材の適正な処理のできる業者を選びましょう。

4 安心して快適な生活環境のための行動・配慮指針

大気・水・土壌

- 自動車を運転する際には、エコドライブ(アイドリングストップ、急発進・急加速の抑制、適切な点検・整備など)を心掛けましょう。
- 庭先などでのごみの焼却はやめましょう。
- 下水道事業計画区域外の単独処理浄化槽は、合併処理浄化槽に設置替えしましょう。
- 台所や洗濯で使用する洗剤は、環境への負荷の少ないものを選び、適量使用に努めましょう。
- 油や野菜くずなどは排水口に流さず、食器や鍋のひどい汚れは紙などで拭き取ってから洗いましょう。

その他の生活環境

- 日常生活の中で、近隣騒音が生じないように心掛けましょう。
- 化学物質に関する正しい知識を身につけるよう努め、環境に配慮した製品・サービスを選択するよう心掛けましょう。
- ペットの糞尿は、飼い主がきちんと始末しましょう。
- 敷地内の枝や雑草(空き地含む)は、隣家や通行人などの迷惑にならないように、剪定や刈り取りを行いきちんと管理しましょう。

5 環境にやさしい社会の担い手を育むための行動・配慮指針

環境教育・環境学習

- 市や環境関連団体などが主催する環境イベントや環境学習会などへ積極的に参加・協力しましょう。
 - 自然観察会に参加し、身近な自然や生き物と触れ合いましょう。
 - 環境に関するニュースや市からの環境に関するお知らせなどの情報収集を行い、自ら環境に配慮した行動を実践してみましょう。
-

横須賀市 環境部 環境政策課 〒238-8550 横須賀市小川町11番地
TEL 046-822-8419 / E-mail ep-ep@city.yokosuka.kanagawa.jp
<令和7年3月改定>